

第1回 金沢学生まちなか回帰検討会議

2026年7月8日
@金沢市役所第二本庁舎 3階 大研修室

- 01 金沢学生まちなか回帰検討会議の概要
- 02 設置の背景
 - ▶ 大学・学生を取り巻く現状
 - ▶ まちなかを取り巻く現状
- 03 学生まちなか回帰検討に当たっての方針
- 04 第1回会議における意見交換の論点
- 05 検討会議の取組内容
- 06 おわりに

- 01 金沢学生まちなか回帰検討会議の概要
- 02 設置の背景
 - ▶ 大学・学生を取り巻く現状
 - ▶ まちなかを取り巻く現状
- 03 学生まちなか回帰検討に当たっての方針
- 04 第1回会議における意見交換の論点
- 05 検討会議の取組内容
- 06 おわりに

01 金沢学生まちなか回帰検討会議の概要

◆ 概要

学生をはじめとした若者をまちなかに呼び込み、賑わい創出を図るとともに、まちへの愛着を醸成し、金沢への定着につなげるため、学生や大学、地域団体等で構成する「金沢学生まちなか回帰検討会議」を設置

検討内容

- ▶ 学生のまちなか回帰に関する現状と課題の整理について
- ▶ まちなかの賑わい創出、学生のまちへの愛着醸成に繋がる、学生のまちなか回帰に係る具体の方策について

構成

- ▶ 高等教育機関の教授、中心市街地の商店街関係者、学生団体の代表
 その他有識者

- 01 金沢学生まちなか回帰検討会議の概要
- 02 設置の背景
 - ▶ 大学・学生を取り巻く現状
 - ▶ まちなかを取り巻く現状
- 03 学生まちなか回帰検討に当たっての方針
- 04 第1回会議における意見交換の論点
- 05 検討会議の取組内容
- 06 おわりに

02 設置の背景 - 大学・学生を取り巻く現状 -

◆ 学生の卒業時の首都圏等への流出

[金沢市・金沢大学共同研究『人口問題における石川中央都市圏の都市機能のあり方等調査研究報告書』]

都道府県	日本人総数	0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90以上
茨城県	19	3	5	1	6	-5	7	-5	3	-1	1	2	-2	1	1	1	1	0	0	0
栃木県	-4	-4	0	-1	8	1	-1	0	-3	1	-1	-1	-2	0	-1	0	0	0	0	0
群馬県	15	3	-2	2	13	-11	7	5	3	-6	1	3	0	-2	1	-2	0	0	0	0
埼玉県	-86	-5	-14	-6	10	-30	-9	-17	-13	-7	-6	3	3	4	0	0	-1	3	1	-2
千葉県	-43	-5	-7	-4	11	-22	-6	-2	-12	-9	6	-5	4	5	0	3	4	-2	-2	0
東京都	-240	52	16	0	-52	-278	-60	35	31	11	6	-24	4	3	4	0	1	1	8	2
神奈川県	-120	4	-4	-5	-5	-88	-24	5	-3	-5	-7	-1	7	-2	7	3	-2	2	-2	0
新潟県	127	6	1	-3	92	15	6	12	0	1	-7	-5	4	5	-1	-1	0	1	0	1
富山県	278	-22	6	4	109	63	59	13	-3	15	3	15	-2	-5	3	-6	8	6	4	8
福井県	64	-2	-13	4	49	15	-6	4	5	3	-14	2	9	-7	5	5	2	1	1	1
山梨県	19	0	0	-1	6	9	3	-2	3	-1	1	-1	2	0	0	0	1	0	-1	0
長野県	34	3	-2	-3	60	10	-15	-11	-2	13	-12	5	-5	-5	-2	-1	1	-1	0	1
岐阜県	44	4	-3	0	39	1	-8	17	0	-11	0	3	-1	1	-1	-1	2	1	0	1
静岡県	28	5	2	6	41	-22	-8	-4	5	2	-3	-8	3	1	1	2	2	1	1	1
愛知県	-68	0	-8	-8	75	-53	-39	5	-1	-10	-31	-15	9	5	2	5	3	-3	-2	-2
三重県	48	4	7	1	20	-22	-14	-4	3	11	16	10	2	5	2	4	1	1	0	1
滋賀県	49	-1	-3	-1	44	-5	4	8	4	-2	1	-3	4	0	0	0	-1	0	0	0
京都府	-29	4	0	-6	-5	-24	19	-10	-6	8	-6	-2	-1	2	-3	0	2	1	-1	-1
大阪府	-47	8	10	-1	-6	-66	-22	4	10	-4	-6	8	0	7	4	2	1	1	3	0
兵庫県	-5	3	-8	-1	2	-3	-4	10	6	4	-9	1	-7	0	-3	2	2	1	-2	1
奈良県	11	-4	-1	-2	4	8	10	5	-1	-4	4	-1	-1	-2	1	0	0	-4	-1	0
和歌山県	-4	-3	0	1	10	-5	-1	-4	-3	1	2	-1	-3	0	0	0	1	0	0	1
合計	50	32	-25	-23	643	-489	-144	42	17	-10	-91	-39	26	14	15	21	23	13	11	14

赤色

転出超過

青色

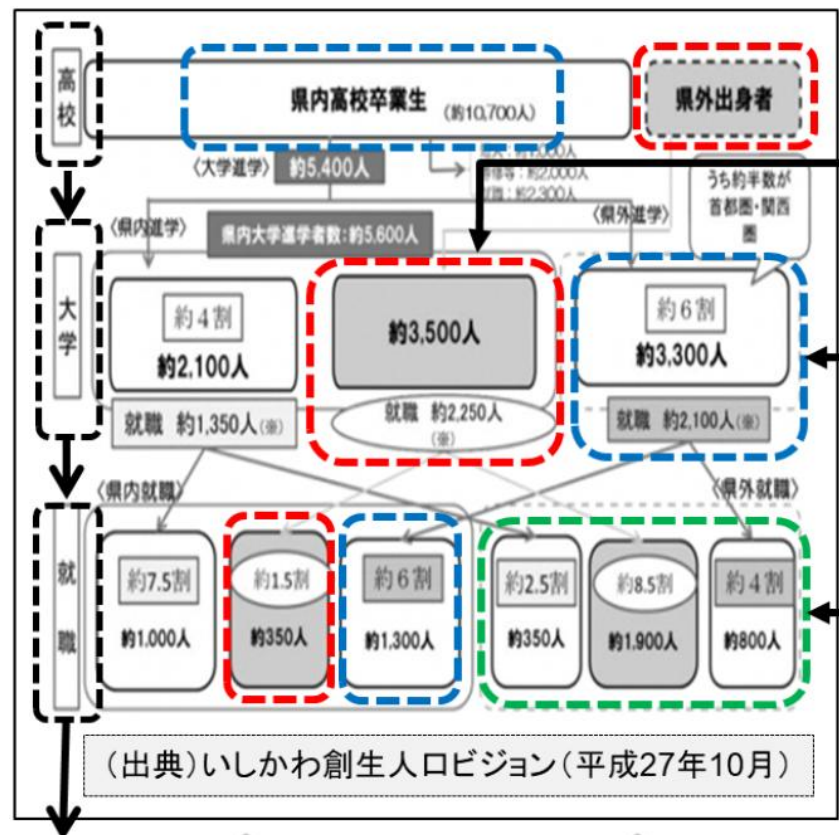
転入超過

出典：金沢市・金沢大学共同研究『人口問題における石川中央都市圏の都市機能のあり方等調査研究報告書』

- ✓ 高等教育機関への進学期（15歳-19歳）では北信越・東海地方からの転入が多い。
- ✓ 就職期（20-24歳）では東京圏への転出が多い。

02 設置の背景 - 大学・学生を取り巻く現状 -

◆ 大学の学生の卒業時の首都圏への流出



概要

- ▶ 県内大学生の内、県内出身者は約4割、県外出身者は約6割
- ▶ 県内就職率は、4割程度

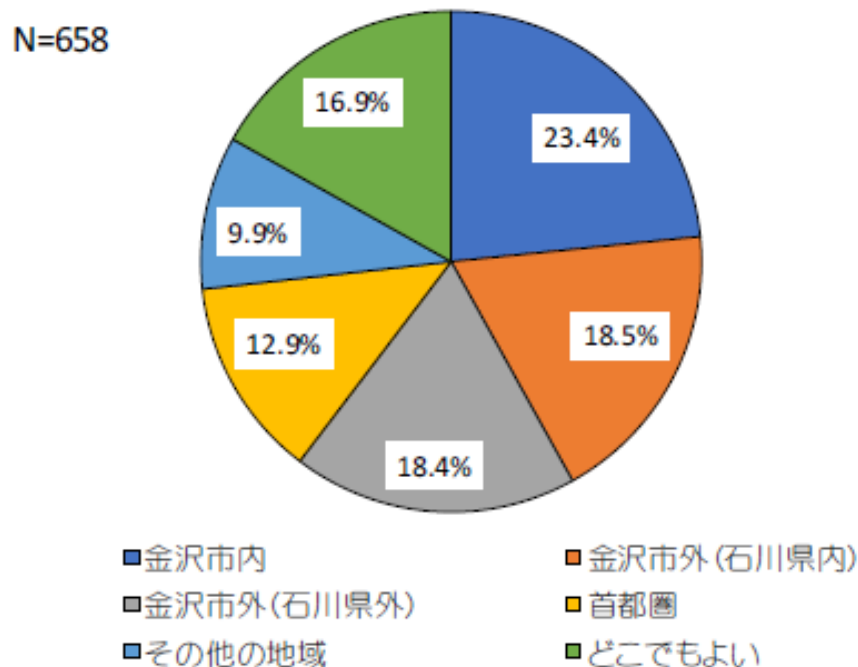
詳細

- ▶ 県内出身者で就職した者の内
県内：7.5割 県外：約2.5割
- ▶ 県外出身者で就職した者の内
県内：1.5割 県外：8.5割

- ✓ 学生全体の卒業後の県内就職率は約40%
- ✓ 学生のおよそ6割は県外出身者だが、その約85%は卒業後に県外で就職

02 設置の背景 - 大学・学生を取り巻く現状 -

◆ 学生の卒業時の金沢居住希望者の割合



質 問

卒業後に居住したい地域はどこか

回 答

金沢市内	23.4%
金沢市外(石川県内)	18.5%
金沢市外(石川県外)	18.4%
首都圏	12.9%

学生基礎調査 (R4.6)

- ・ 市内及び近郊の高等教育機関に通う学生を対象に、
- ・ 学生が持つ金沢の未来に対する考え方等の調査を実施

✓ 学生市内学生の卒業後に居住したい地域は『金沢市』が最も高い割合であるが、全体のおよそ2割にとどまっている

02 設置の背景 - 大学・学生を取り巻く現状 -

◆ 「金沢への誇り・愛着度」と「卒業後の居住地」との関係

金沢に誇り・愛着	金沢市内	比率	金沢市外 (石川県内)	比率	金沢市外 (石川県外)	比率	首都圏	比率	その他の 地域等	比率	総計
感じている	79	41.6%	43	22.6%	14	7.4%	17	8.9%	27	19.5%	190
やや感じている	59	19.9%	61	20.6%	55	18.6%	36	12.2%	63	21.3%	296
あまり感じていない	12	11.3%	9	8.5%	34	32.1%	18	17.0%	33	31.1%	106
感じていない	0	0.0%	3	8.6%	14	40.0%	9	25.7%	9	25.7%	35
わからない	4	12.9%	6	19.4%	4	12.9%	5	16.1%	12	38.7%	31
総計	154	23.4%	122	18.5%	121	18.4%	85	12.9%	43	23.4%	658

出所：金沢市「学生基礎調査報告書（令和4年9月）」のデータを加工

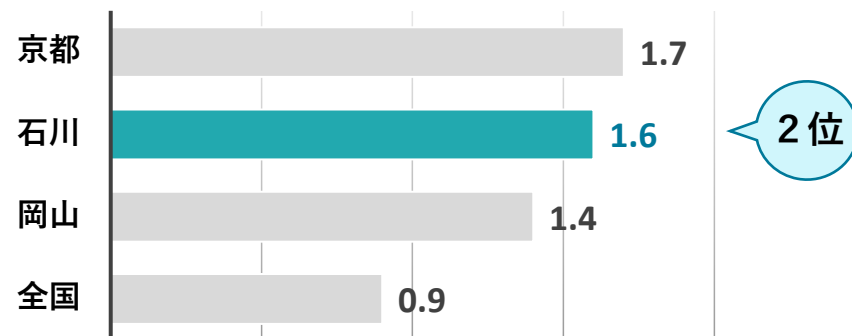
- ✔ 『金沢への誇りや愛着』を感じている学生は、卒業後の居住地に金沢市を選択する割合が6割超と高い

02 設置の背景 - まちなかを取り巻く現状 -

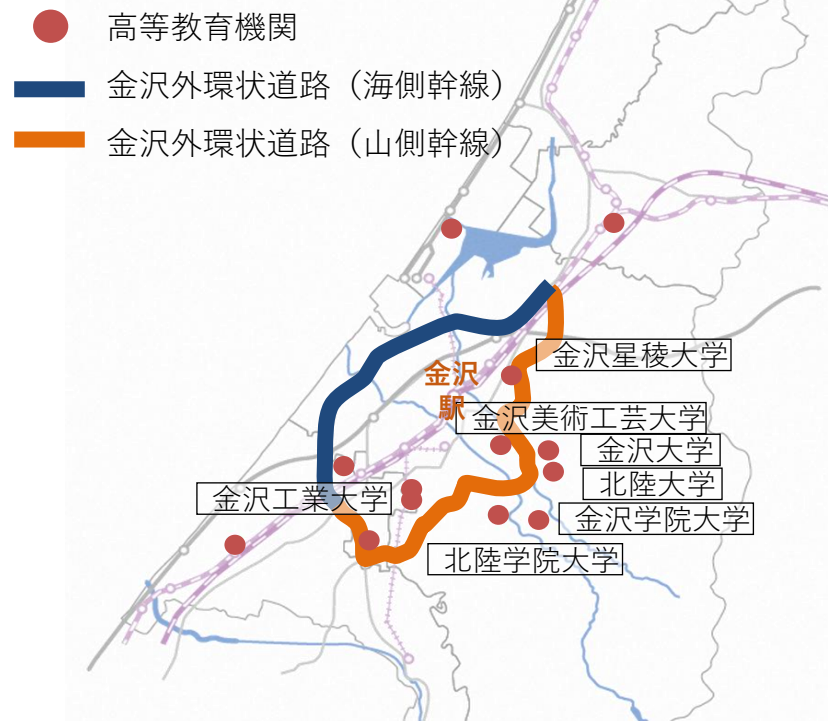
◆ 高等教育機関の集積 -学都金沢-

石川県内	19
石川中央都市圏内	17
金沢市内	9

■ 人口10万人当たりの高等教育機関数



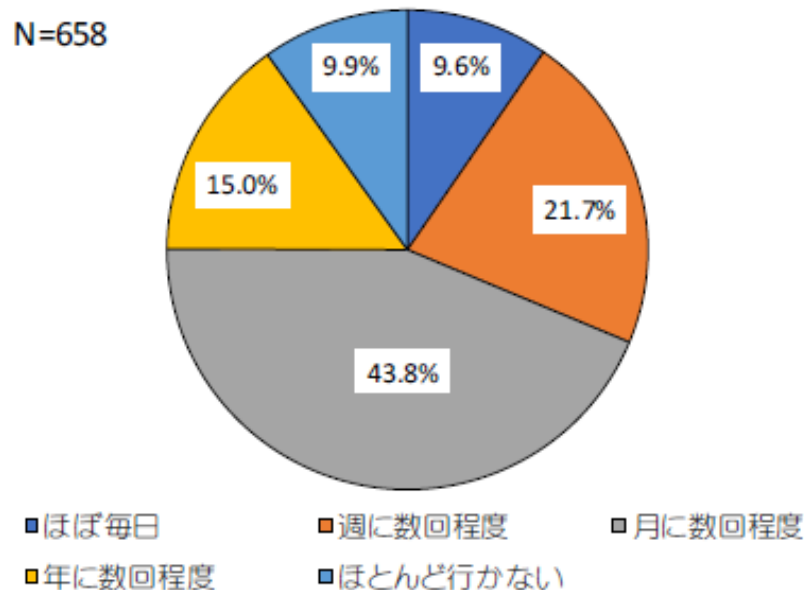
出所：令和7(2025)年度学校基本調査



- ✓ 金沢大学の城内キャンパスが角間に移転 [平成元年～平成7年の期間で]
- ✓ 中心市街地を囲むように大学が立地している「環状大学都市」
- ✓ 総合大学・工業大学・美術大学 など、多種多様な特徴を持った大学が立地

02 設置の背景 - まちなかを取り巻く現状 -

◆ 大学の郊外化等による学生のまちなかでの活動機会の減少



質 問

金沢の『中心市街地』(香林坊・片町・武蔵・金沢駅周辺)』
に行く頻度はどれくらいか。

回 答

ほぼ毎日	9.6%
週に数回程度	21.7%
月に数回程度	43.8%
年に数回程度	15.0%

学生基礎調査 (R4.6)

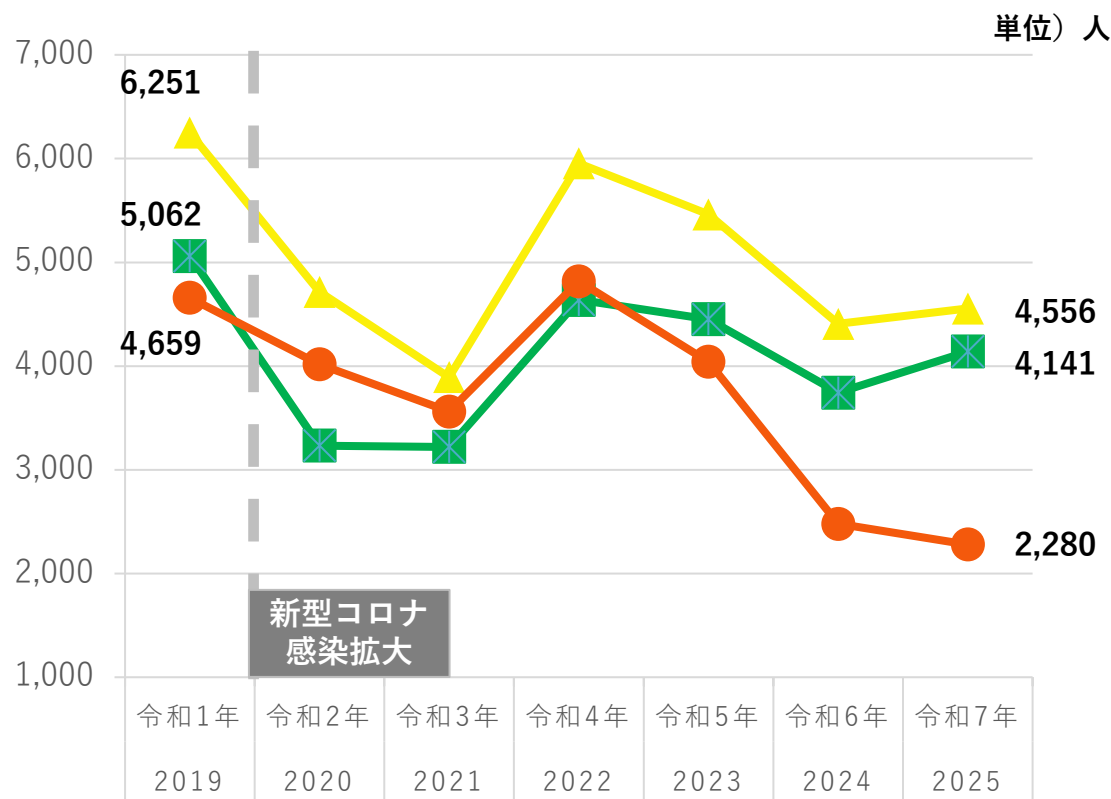
- ・ 市内及び近郊の高等教育機関に通う学生を対象に、
- ・ 学生が持つ金沢の未来に対する考え方等の調査を実施

✓ まちなかを訪れる頻度が「月に数回程度／年に数回程度」の学生の割合は約60%

02 設置の背景 - まちなかを取り巻く現状 -

◆ まちなかへの歩行通行量の減少

休日の歩行者通行量の推移 [各年10月におけるKDDI株式会社が提供する人流データを活用した動態調査]

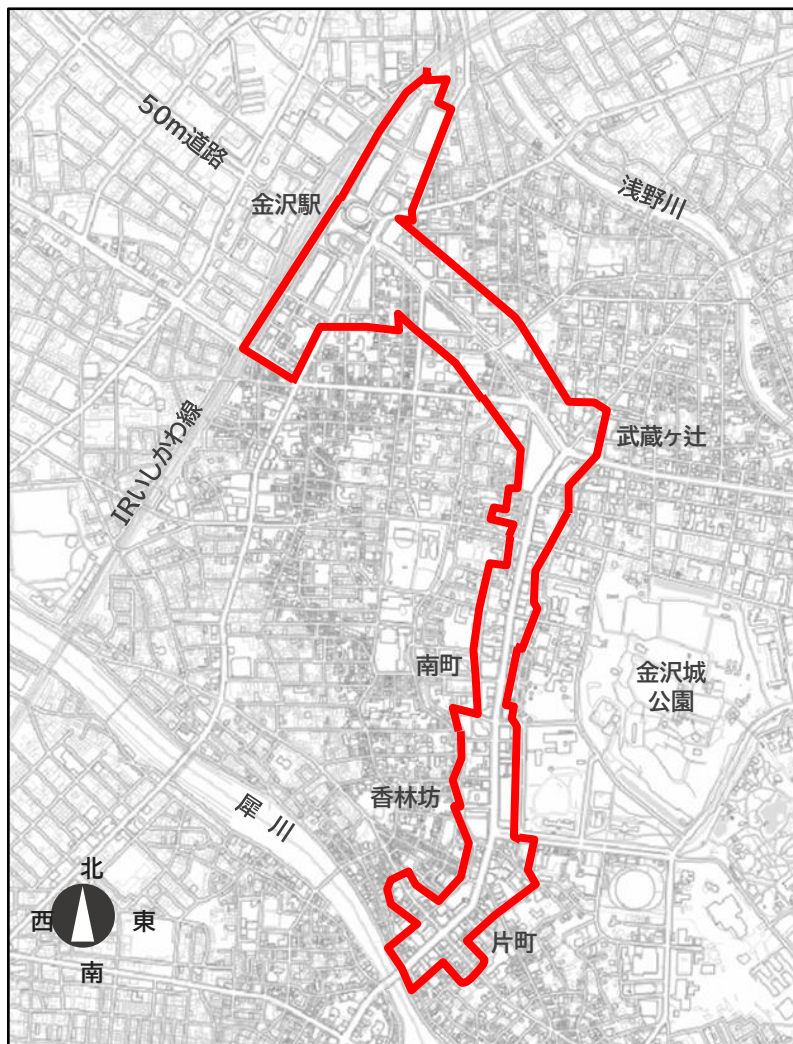


✓ まちなかの休日歩行者通行量は減少しており、コロナ禍以前の数字に戻っていない

02 設置の背景 - まちなかを取り巻く現状 -

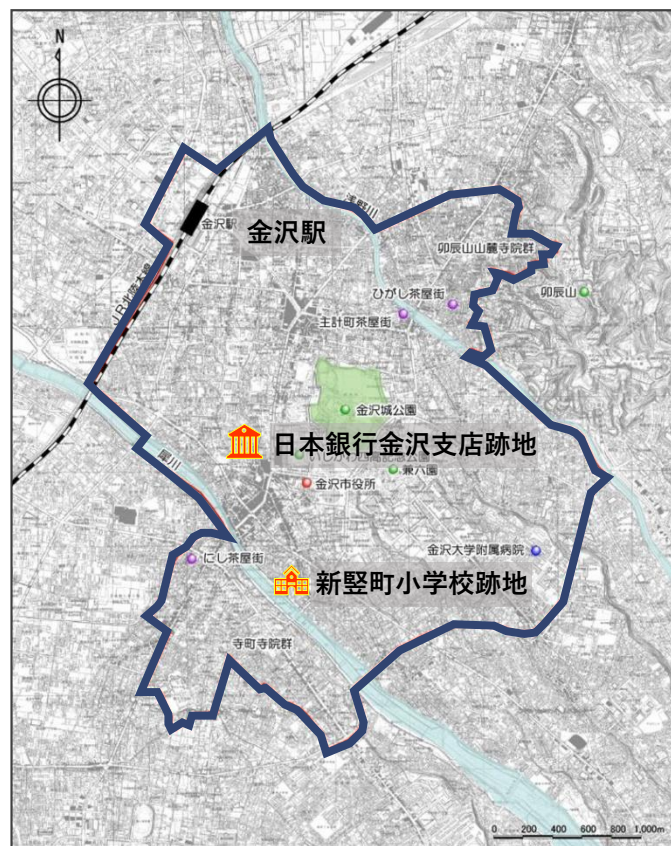
◆ 都市再生緊急整備地域への指定 [令和7年6月27日]

✓ 地域整備の主な目標



- ▶ 北陸新幹線の大阪までの全線開業を見据え、文化都市・学都としての都市の個性を生かし、国内外からの交流人口の拡大に取り組み、にぎわいと活力を創出
- ▶ グローバル化の進展に伴い、都市間競争が激しさを増す中、日本海国土軸における主要都市としての拠点性を高めるため、地域経済をけん引する高次都市機能を集積
- ▶ 居心地が良く歩きたくなるまちなかを形成するとともに、多様な交通モードが便利に利用できる人中心の空間を形成
- ▶ 能登半島地震の教訓を踏まえた防災・減災対策や、脱炭素社会の実現に向けた取組の推進により、災害に強く地球環境にも配慮した都市基盤を形成

◆ 跡地の利活用



日本銀行金沢支店跡地



立地：金沢市香林坊2-3-28
竣工：昭和29年（1954年）
都市計画：商業地域、建ぺい率：80%、
容積率：600%、高度地区45m
構造：鉄骨・鉄筋コンクリート造、
地下1階付地上3階建、陸屋根
面積：約4,800㎡（延床面積）
約4,700㎡（敷地面積）

新塲町小学校跡地



立地：新塲町3丁目25番1ほか15筆
竣工：1960(昭和35)～1963(昭和38)年
都市計画：近隣商業地域、建ぺい率：80%、
容積率：300%、高度地区18m
構造：鉄筋コンクリート造
面積：約4,500㎡（延床面積）※旧校舎部分
約9,200㎡（敷地面積）※旧校舎+運動場

✓ まちなかの新たな魅力やにぎわいの創出拠点を目指す [日本銀行金沢支店跡地]

✓ 地域における学術活動を促進する拠点を目指す [新塲町小学校跡地]

- 01 金沢学生まちなか回帰検討会議の概要
- 02 設置の背景
 - ▶ 大学・学生を取り巻く現状
 - ▶ まちなかを取り巻く現状
- 03 学生まちなか回帰検討に当たっての方針
- 04 第1回会議における意見交換の論点
- 05 検討会議の取組内容
- 06 おわりに

03 学生まちなか回帰検討に当たっての方針

◆ 取組の方向性

- まちなかの活性化につながる『学生のまちなか回帰』の推進
- 金沢への愛着を高める『学生の地域との共創』の推進
- 大学卒業後も住み続ける『学生の金沢定住』の推進

取組内容

- 検討会議の開催
 - ▶ 学生のまちなか回帰に関して、学術分野や中心商店街の関係者、学生を交えて意見交換を実施
 - ▶ 検討会議の開催と併せて下記取組を実施。学生まちなか回帰を検討する
 - ▶ 会議での意見交換及び下記取組の結果を踏まえ、次年度施策の方向性について検討・提言

1 実証実験

- ・ 学生がまちで活躍し、愛着を深める仕組みづくりの検証を目的とした実証実験

2 基礎調査

- ・ 市内および近郊に住む大学生を対象にしたまちなかに関する意識調査

3 ワークショップ

- ・ 学生のまちなかに対する意識や理想のまちなかについて考えるワークショップを開催

- 01 金沢学生まちなか回帰検討会議の概要
- 02 設置の背景
 - ▶ 大学・学生を取り巻く現状
 - ▶ まちなかを取り巻く現状
- 03 学生まちなか回帰検討に当たっての方針
- 04 第1回会議における意見交換の論点
- 05 検討会議の取組内容
- 06 おわりに

- 学生がまちなかに「訪れる／訪れない」理由や背景について
- 学生がまちなかに求めるものについて

- 01 金沢学生まちなか回帰検討会議の概要
- 02 設置の背景
 - ▶ 大学・学生を取り巻く現状
 - ▶ まちなかを取り巻く現状
- 03 学生まちなか回帰検討に当たっての方針
- 04 第1回会議における意見交換の論点
- 05 検討会議の取組内容
- 06 おわりに

1 実証実験の実施

■概要

学生がまちで活躍し、愛着を深める仕組みづくりの検証を目的とした実証実験

視 点

学生にとって“まちなか”とは？

- ▶文化・芸術の集積により、“金沢らしさ”との接点が豊富
- ▶経済の中心であり、“新しい”金沢の魅力の発信場所
- ▶環状に配置された各大学の中心に位置し、大学連携・学生交流の接続点

実施プロジェクトテーマ〈例〉

●案1 アートによる学生まちなか滞留のしかけ創出

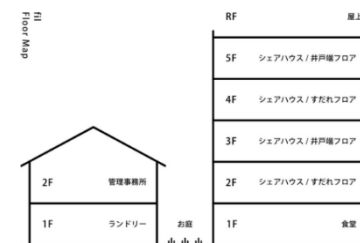
- ▶参加型アート体験プログラム
(関連：21世紀美術館休館、まちなか芸術祭)

●案2 大学間交流のしかけ創出

- ▶学生同士が交流する仕組みづくり、大学間連携による学びの仕組み
⇒複数大学交流による、まちなか回帰の有効性について検証
⇒運営・企画側も学生が担うこと



アートによるまちなか滞留のしかけ [参考：東京都ムーンアートナイト下北沢]



まちなかの大学間交流拠点／居場所 [参考：富山市 fil]

2 学生まちなか回帰推進に係る基礎調査の実施

■概要

大学との連携により、学生の金沢のまちなかに対する考え方についてアンケート調査を実施・分析し、まちなかに学生を呼び込む施策検討の基礎資料とする

実施内容

① アンケート調査の実施

対象 市内及び市近郊大学生

項目 まちなかへの来街頻度、まちなかに行く目的、まちなかに行かない理由、まちなかに求めるもの、交通機関の活用状況・意識、金沢への愛着(もの・場所)、卒業後の希望就業地 など

② 他都市事例調査・関係機関へのヒアリング

▶複数大学が立地する他都市事例を調査し、アンケート調査の分析に反映

③ アンケート調査結果の分析

▶まちなかに対しての学生の傾向（来街頻度や目的、求めるものなど）
▶属性による金沢への印象・愛着度・まちなか来街頻度／目的の違い
▶公共交通機関についての利用状況、要望 など

アンケート調査
(他都市事例調査)



アンケート調査結果の分析
[先進都市事例調査の結果を反映]

- まちなか来街の頻度・目的・傾向
- 金沢への愛着度とまちなか来街との相関関係
- 公共交通機関に関する利用状況・要望 など



学生まちなか回帰施策への反映

- 学生まちなか回帰施策検討の基礎資料に

3 ワークショップの開催

■概要

学生のまちなかに対する意識や理想のまちなかについて考えるワークショップを対象者を分類した上で複数回開催

目 的

- アンケート調査では把握しきれない、学生のまちなかに対する意識や思いについて、ワークショップの形で拾い上げる

把握したい事項

- 学生のまちなかへの考え方や関わりについて
- まちなかへ行く目的や頻度、滞在時間
- 金沢のまちなかに抱いている印象（まちなかに行かない理由なども）
- 学生視点でまちなかに求める場や機能、環境など

- 01 金沢学生まちなか回帰検討会議の概要
- 02 設置の背景
 - ▶ 大学・学生を取り巻く現状
 - ▶ まちなかを取り巻く現状
- 03 学生まちなか回帰検討に当たっての方針
- 04 第1回会議における意見交換の論点
- 05 検討会議の取組内容
- 06 おわりに

◆ 検討のスケジュール（案）

第1回会議（本日）	検討会議の取組内容、意見交換
-----------	----------------

第2回会議 [11月下旬]	中間報告、方向性の検討、意見交換
---------------	------------------

第3回会議 [1月下旬]	方向性の取りまとめ
--------------	-----------



以下、参考資料

◆ 「学都」金沢の歩み

- ▶ 金沢は、明治期に、加賀藩の藩校を源流とした金沢医学館や旧制第四高等学校などが開学し、以後、数多くの高等教育機関を擁する学術文化都市として発展
- ▶ 国内外から多数の学生が集まり、金沢のまちを学び舎やとして自らの知恵、能力、人間性を磨くことにより、学術、文化、経済など広く各界に俊英を輩出
- ▶ 学生たちは、まちなかに集い、市民と憩い、談論風発するなど、日々の暮らしにおいて学生と市民とが相互に交流する姿は、にぎわいと活力の象徴として、「学生のまち・金沢」の歴史を刻み、今日に至る

学都金沢の形成

- ・藩学明倫堂（寛政4年～明治3年）
- ・金沢医学館（明治3年～明治8年）
- ・石川師範学校（明治7年～昭和26年）
- ・石川県専門学校（明治14年～明治21年）
- ・旧制第四高等学校（明治20年～昭和25年）
- ・金沢大学（昭和24年～）

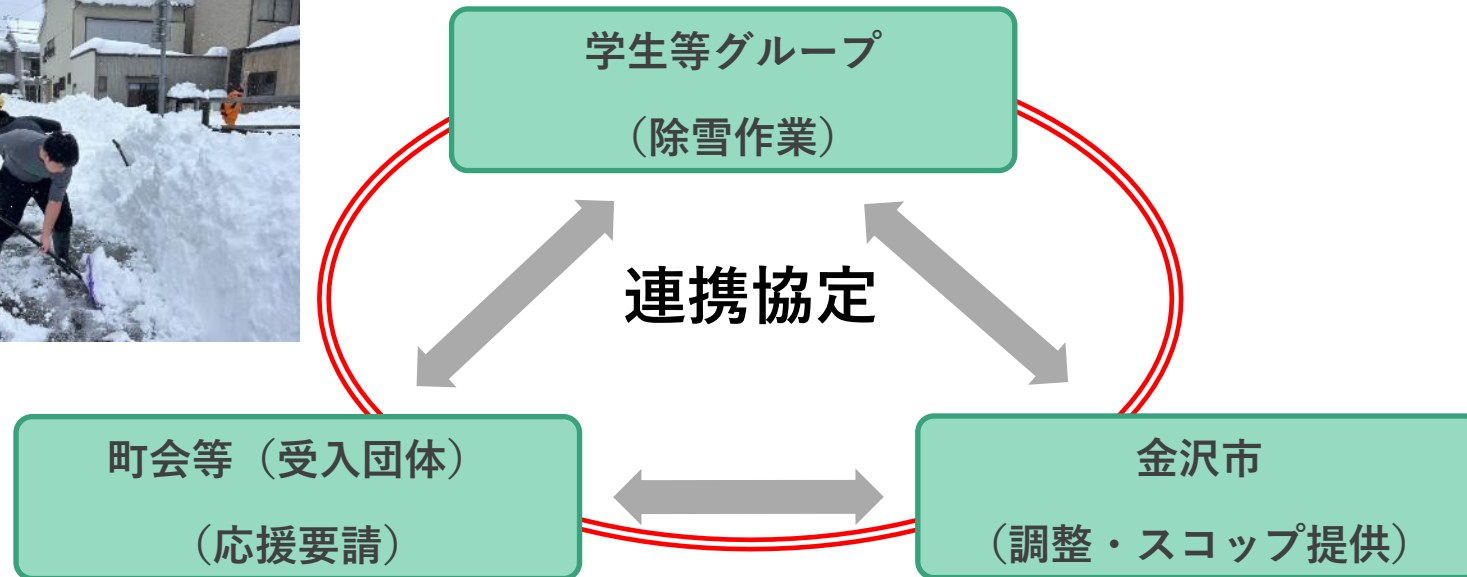
近隣大学の設立時期

学校名	設立	協定締結
金沢大学	1862年	2009年3月
金沢工業大学	1957年	2009年3月
石川工業高等専門学校	1965年	2009年3月
金沢医科大学	1972年	2010年10月
金沢学院大学	1946年	2014年3月
金沢星稜大学	1967年	2015年3月
北陸大学	1975年	2015年5月
北陸学院大学	1885年	2016年11月
金沢美術工芸大学	1946年	

◆ 雪かきボランティア協定 [H18~]

【概要】

地域と学生等が協定を結び、協定地域からの要請に応じ、学生等雪かきボランティアが現地に行き、地域の方々と共に周辺道路等の除雪を行う。



【直近3か年の実績】 (協定締結数, 活動回数)

(R5 : 23組, 4回)、(R6 : 22組, 16回)、(R7 : 26組, 7回)
(最多活動 H29 : 24回)

◆ 金沢市における学生のまちの推進に関する条例 [H22~]

平成22年4月1日施行

学生と市民、学生とまちの関わりを深めるための全国初の条例

目的（条例前文および第1条）

地域社会が可能性豊かな学生を育み、学生と市民との相互の交流や学生と金沢のまちとの関係を深めながら、学生のまちとしての金沢の個性と魅力をさらに磨き高めていく

⇒ 学生のまちとしての伝統と誇りを継承発展させることにより、金沢を将来にわたり希望と活力に満ちた魅力あふれるまちとする

基本理念（条例第3条）

【学生を育む社会機運の醸成】

地域社会全体で学生を育む社会的気運を醸成しながら行う

【学生の自主的な活動を促進】

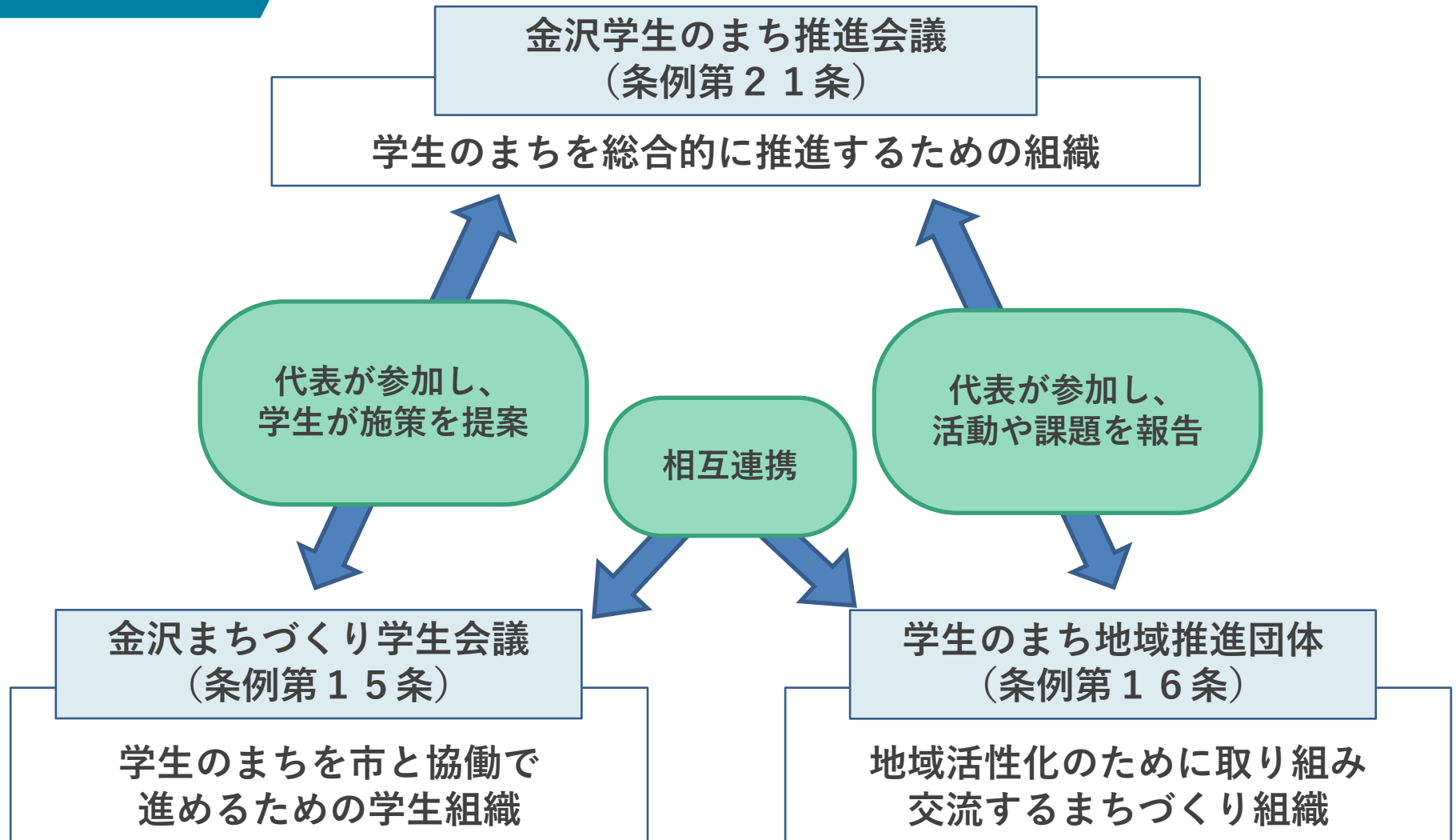
推進の主体は学生であるという認識のもとに、学生の自主性を尊重しながら、自主的な活動を支援する

【相互の理解と連携】

様々な主体が、相互の理解と連携のもとに、協働して行う

◆ 金沢市における学生のまちの推進に関する条例 [H22~]

学生のまち推進体制



◆ 金沢まちづくり学生会議

「学生のまち・金沢」の推進母体として平成22年6月に発足
学生らしい枠にとらわれない柔軟な発想力と行動力で、
金沢の中心市街地活性化など、様々なまちづくり活動に取り組んでいる。

○ 令和7年度（第16期）メンバー 84人

金沢工業大学：29人、金沢大学：21人、石川県立大学：18人、
石川県立看護大学：5人、金沢星稜大学：5人、金沢学院大学：3人、
金城大学、かなざわ食マネジメント専門職大学、金沢星稜大学女子短期大学部：各1人

OPEN CITY in KANAZAWA



まちなか学生まつり

まちづくりアイデアソン



◆ 金沢学生のまち市民交流館

- 金沢学生のまち市民交流館 開館 H24.9.29
金沢学生のまち市民交流館運営会議による運営
(学生、高等教育機関関係者、地域住民、市民団体 等により構成)



- ・ 学生サポーター企業制度 [H24.9 スタート R8.4：35団体登録]
- ・ 魅力発信行動プロジェクト (慶應大学飯盛研究室 × 学生のまち金沢) [H26・H27]
 - 考案された2プロジェクトを事業課
 - ① 「かなざわ娘」プロジェクト
→ 現在も活動 水引体験や事業者と連携した商品開発などを実施
 - ② 「まちなか語らいキャンパス」プロジェクト
- ・ やかたアンバサダー事業 (現やかたコンシェルジュ事業) [H29~]
- ・ 学生の地域コミュニティ連携促進事業 [R5~]

◆ 高等教育機関等との個別協定

個別協定の目的

本市と各大学等との相互の緊密な連携と協力により、地域の課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成・発展及び地域を担う人材の育成・交流に寄与する。

大学名	協定締結日	協定書に定める連携事項
金沢大学	H 2 1. 3. 2 7	・まちづくり ・産業の活性化 ・教育や人材の育成 ・環境保全 ・国際交流の推進 ・健康、福祉、医療 ・コミュニティ活動 ・防災対策 ・歴史遺産保存、芸術文化振興
金沢工業大学	H 2 1. 3. 2 6	・まちづくり ・産業の活性化 ・教育や人材の育成 ・環境保全 ・コミュニティ活動 ・防災対策 ・歴史遺産保存、芸術文化振興
石川工業高等専門学校	H 2 1. 3. 2 7	・教育や人材の育成 ・環境保全 ・ものづくり ・コミュニティ活動 ・歴史伝統文化の保全、継承
金沢医科大学	H 2 2. 1 0. 2 8	・教育・福祉・医療の充実 ・産業の活性化 ・教育や人材の育成 ・コミュニティ活動
金沢学院大学	H 2 6. 3. 2 5	・スポーツの振興 ・食文化の振興 ・歴史遺産の保存活用、芸術文化の振興 ・国際交流の推進 ・学生のまち推進 ・地域経済の活性化
金沢星稜大学	H 2 7. 3. 2 7	・地域産業の活性化 ・国際交流の推進 ・教育や人材の育成、交流 ・スポーツの振興 ・学生のまち推進
北陸大学	H 2 7. 5. 1 3	・国際交流の推進 ・教育や人材の育成、交流 ・歴史文化の振興 ・学生のまち推進 ・健康・医療の充実、産業の活性化
北陸学院大学	H 2 8. 1 1. 2 9	・地域社会・文化の振興 ・教育や人材の育成、交流 ・食文化の振興 ・学生のまち推進

◆ 県・市の連携事業

兼六園周辺文化施設等学生パスポート発行事業

目 的

学生のまち推進条例の制定を機に、学生のまち・金沢にふさわしく、まちなかで学生が様々な活動を行う機会を増やし、まちなかの賑わい創出を図る。

概 要

大学コンソーシアム石川に加盟する高等教育機関の新入生及び新規留学生を対象に、1年間文化施設を無料で利用できる「学生のまちパスポート」を発行
※事業主体は大学コンソーシアム石川

<利用者数>

R1 : 6,432人
R2 : 4,396人
R3 : 4,511人
R4 : 5,974人
R5 : 5,118人
R6 : 3,933人
R7 : 3,780人

12月末時点

◆ 大学連携地域力創造プロジェクト [R5~]

■ 概要

- ▶ 大学と連携し、まちづくりや地域の活性化に関する実践型の授業を開講
 - ▶ 学生がキャンパスを飛び出し、実際にまちなかの施設や市民に触れながら、地域・行政課題の解決や地域の活性化に取り組む実践型の授業を開講
 - ▶ 学生が社会に参画することにより、学生の地域への愛着醸成や学生自身の人材育成につなげる
 - ▶ 授業またはゼミといった正課授業（単位付与）でのプロジェクト実施が条件
 - ▶ R8年度：8大学9科目（R7：8大学9科目、R6：5大学6科目、R5：3大学3科目）

R 8
連携
大学

金沢大学・金沢工業大学・金沢学院大学・金沢星稜大学
北陸大学・石川工業高等専門学校・金城大学・金沢美術工芸大学

■ 事業詳細

地元大学との連携により、地域団体等学生のフィールドワーク等を受け入れて実施する実践型地域課題解決プロジェクトを正課授業において実施。以下項目を目的とした事業について取り組む。

- ✓ 学生と地域との交流を拡大させることによって、若者だけでなくヨソモノの視点と活力を取り込み、魅力的な地域づくりに向けた機運を醸成すること
- ✓ 大学生が地域活性化の取組に関わる機会を拡大させることによって、学生のまちへの愛着を醸成すること
- ✓ 地域住民との交流を伴ったフィールドワークにより、地元学生に新たな学びを創出をすること

◆ 大学連携地域力創造プロジェクト - R7実績 -

大学名	事業内容	実施形態
金沢大学	・東原町まちづくり活動の運営支援 ・片町商店街来街促進事業の企画	地域創造インターンシップⅠ [地域創造学類選択科目／通年／2年生] ※片町商店街振興組合、東原町くくのちと連携
金沢工業大学	・額地区をフィールドに、夏祭りの満足度向上や祭りを通じた地域発展の実証実験、提案を実施	プロジェクトデザイン特別科目(金沢まちづくり) [リベラルアーツ系科目／夏季集中講座／2年生] ※額振興会と連携
金沢学院大学	・市内保育施設へのアンケート・インタビューを通じて、動物とのふれあい体験が園児に与える影響について考えるWSを開催	教育学基礎セミナーⅡ [教育系科目／後期／3年生] ※市内保育所と連携
北陸大学	・菊川町公民館と連携し、避難所における防犯ガイドブックを作成	専門ゼミナール [経済経営学部必修科目／通年／3年生] ※菊川町公民館と連携
金沢美術工芸大学	・地域住民へのアンケートをもとにデザインの力で課題解決を図るワークショップを実施、成果試作品を作成	フィールドワーク基礎演習 [インタストリアルデザイン必修科目／後期／3年生] ※三菱電機（株）による技術支援
金沢星稜大学	・武蔵地区商店街振興組合と連携し、フィールドワーク、データ分析を通じ地域活性化策を提案	フィールドワーク基礎演習 [地域システム学科必修科目／後期／1年生] ※武蔵地区商店街振興組合と連携
金城大学	・横安江町商店街と連携し、地域の賑わい創出について、ビジネスプランとして検討・実施	日本文化論 [総合経済学部選択科目／後期／1年生] ※横安江町商店街と連携
石川工業高等専門学校	・三谷を考える会と連携し、地区の賑わい創出策について、住民との交流やフィールドワークをもとに検討した活性化策を実践	専攻科 創造工学演習Ⅱ [ものづくり科目／後期／2年生] ※三谷を考える会と連携

◆ 大学連携地域力創造プロジェクト - 主な取組結果 -

金沢大学 地域創造インターンシップ I



- ▶ 下記受入先と連携し、地域課題解決を現地において学ぶ地域課題解決型インターンシップを実施
 - ・【片町商店街振興組合】学生来街促進ガイドブック作成
 - ・【東原町】東原町におけるまちづくり活動の運営支援

金沢工業大学 プロジェクトデザイン特別科目(金沢まちづくり)



- ▶ 額振興会と連携し、額地区の夏祭りをきっかけとした地域活性化策について検討、下記アイデア等を提案
 - ・二次元コード付きの巨大な「額オブジェ」を設置
 - ・来場者の滞在時間を延ばすための「仮設休憩所」

金沢美術工芸大学 フィールドワーク基礎演習



- ▶ 地域住民へのインタビュー調査等を通して、金沢市が目指す将来像をデザインの力で達成するアイデアを提案し、試作品等を制作

石川工業高等専門学校 専攻科 創造工学演習 II



- ▶ 「三谷を考える会」と連携し、三谷地区のにぎわい創出を目指し、下記内容を実践。
 - ・体験型イルミネーションの設置
 - ・子ども向けワークショップ「パスタブリッジ制作」

◆ 学術的知見を生かした連携施策 -主なもの-

金澤月見光路 [H16~]



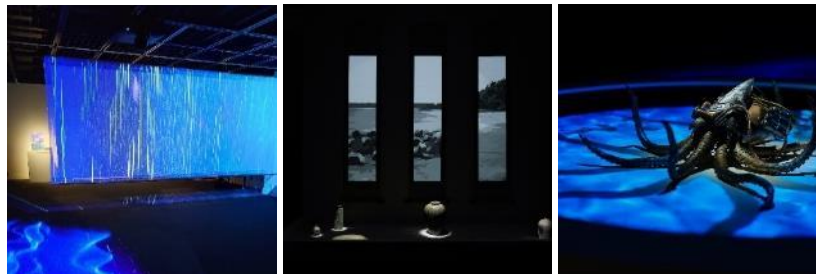
金工大 × 観光政策課

- ▶ 金沢市中心市街地の夜の賑わい創出を目指して、学生たちが専門性を活かし、新たなデザイン文化・技術の発展に挑むことでまちづくり活動に取り組む

内容

・ホログラム展示やインタラクティブCGアニメーションなど最新メディアテクノロジーによる多様なコンテンツを展開

KOGEIデジタルアートミュージアム [R7~]



金工大×クラフト政策推進課

- ▶ デジタルアートを用いて、伝統工芸における「美術工芸」の要素を魅力的に表現することで、幅広い「工芸」に触れる機会を創出し「工芸のまち・金沢」を広く発信する

内容

・KOGEIフェスタ！内の催しとして実施
[10/11-10/12 @ しいのき迎賓館]

金沢スタジアム周辺活性化事業 [R7~]



金沢学院大、美大×スポーツ振興課

- ▶ 金沢スタジアムへの公共交通利用促進とツエーゲン金沢への市民の応援機運醸成を図るため、IRいしかわ鉄道東金沢駅から金沢スタジアムまでの歩道に歩行者誘導シートを設置

内容

・デザイン完成セレモニー [11/2 ツエーゲン金沢の試合前]

観光地美化推進事業 [R7~]



金沢大学×観光政策課

- ▶ 観光地の美化を推進するため、顕在化しているゴミとトイレの課題解決のため、大学と連携し受入環境整備の実施及びデータ収集と分析を実施

内容

・東山地区にて実証実験

◆ 学術的知見を生かした連携施策 -主なもの-

金沢の文化財魅力発信協働推進 [R3~]



金大 × 文化財保護課

- ▶ 国史跡「加越国境城跡群及び道」などの山城について、普及活用と魅力発信を目的として、「山城マイスター」を養成し、併せて山城の普及・活用方策を開発・実施

内容

・山城の基礎講座、金沢市の取り組み、他自治体の取り組み、最新研究などの講座開催など

文化財建造物保存調査事業 [H15~]



金工大 × 文化財保護課

- ▶ 市内に残る多数の歴史文化資産（建造物）の文化財指定・指定保存建造物指定等の指定を進め、歴史都市金沢の魅力の向上を図る

内容

・指定／登録候補の文化財建造物について、詳細な現地調査等により、指定・登録に向けた基礎資料の整理・作成を実施

金澤月見ゲート [H25~R2]



金工大 × 企画調整課

- ▶ 金沢の玄関口である金沢駅鼓門に光の演出「自動生成型・鑑賞型・参加型のプロジェクションマッピング」を行い、夜の金沢の賑わいを創出

内容

・金沢駅もてなしドーム「鼓門」にて、10月の土日の二日間実施

歩けるまちアートベンチ [H30~R1]



金沢美術工芸大学 × 歩ける環境推進課（現：交通政策課）

- ▶ 魅力的なデザインのベンチを都心軸等に設置することで、歩いて観光する来街者や市民の回遊性向上を図るとともに、まちなかにおける憩いと賑わいの空間を創出する

内容

・11か所22基（都心軸等）、素材に能登ヒバや戸室石を活用
・観光スポット等を紹介する二次元コードを記載

◆ 学生の視点・活力を生かした連携施策 –主なもの–

全国学生大茶会 [H30~]



金大、金沢学院大、美大等 × 文化政策課

- ▶ 藩政時代以来、茶の湯文化が息づく「茶の湯のまち・金沢」で、本市の茶の湯文化や茶室の魅力を広く発信するため、全国の大学茶道部が主体の大茶会を開催

内容

- ・ 全国学生大茶会2025の開催
[8/30-8/31 @市内中心部の茶室等11会場]

金沢アカペラ・タウン2025 [H21~]



金大等 × 文化政策課

- ▶ 「学生のまち」・「芸術文化のまち」金沢の魅力を全国に発信するため、金沢大学等と連携し学生が主体となり企画・運営を行うイベント「金沢アカペラ・タウン2025」を開催

内容

- ・ 金沢アカ/ペラ・タウン2025の開催
[8/23-8/24 @金沢市中心部の8会場]

「木の文化都市・金沢ミライまちづくり」 [R3~]



金工大等 × 都市計画課

- ▶ 「木の文化都市・金沢」の推進を図るとともに、建築を学ぶ学生が、将来の金沢のまちづくりに携わる建築家を目指すきっかけとなるよう、学生と連携した事業を実施

内容

- ・ 「公園トイレの木質化」をテーマにした学生提案事業
- ・ R4学生提案の『木の場』の設置

歴史的空間再編コンペティション [H24~]



金工大等 × 都市計画課

- ▶ 全国の学生から「歴史的空間の再編」をテーマに設計作品を募集し、グランプリを決定する。
- ▶ コンペの運営は地元で建築を学ぶ学生の団体のSNOU（スノウ）

内容

- ・ 歴史的空間コンペティション2025を開催

◆ 学生の視点・活力を生かした連携施策 –主なもの–

大学生モビリティマネジメント事業 [R3~]



金沢大学 × 交通政策課

- ▶ 大学生を対象とし、公共交通を日常的に活用してもらい、将来、自動車に過度に依存しない意識を醸成するとともに、まちなかへの来街を促進する。

内容

- ・ まちのリサポーター制度の周知
- ・ ポイント制度を活用したバッテリー交換に係る協力連携

金沢マラソンにおける相互協力 [H27~]



金沢学院大等 × 金沢マラソン推進課

- ▶ 大会当日におけるボランティア活動、応援ステージの企画・運営に携わるほか、大会グッズのデザイン作成、経済波及効果の分析等に取り組む、同大会の円滑な運営と機運醸成を図る

内容

- ・ 金沢マラソン2025の開催 [10/26]

かなざわ学生防災フォーラム [R7~]



金工大、金大、北陸大学等 × 危機管理課

- ▶ 防災に関する取組を共有しながら、学生の防災力強化及び地域の防災訓練への協力を得るなど、防災を通じた地域への愛着・つながりを深め、地域防災力の強化を図る

内容

- ・ フォーラムの開催 [10/5 @学生のまち]

◆ 大学連携学生定着促進事業 [R6~]

ちょいみり

目的

学生が、若い社会人から、県外と比べた住環境や子育てなど市内定住の魅力、市内に定住した考えや経験等を聴き、自身の将来のキャリアの参考にする交流会を実施することで、学生の定着を促進する

R7年度 取組結果

■ 概要

1回目「金沢で考える！卒業後をおしゃべり女子会」

日 時 令和7年7月12日(土) 13:30～ 参加者 44名

2回目「金沢で考える！都会と地方の“ホントのところ”」

日 時 令和7年12月14日(日) 13:30～ 参加者 60名

■ 内容

全体交流 ゲスト社会人がパネルディスカッション形式で学生の関心の高い内容について回答

個別相談 ゲスト社会人がそれぞれブースを作り、学生からの個別の質問や相談に対応



◆ 金沢市学生のまちなか居住・地域活動促進奨励金 [R3～R4]

概 要

新たにまちなかに居住し、地域活動を行う学生に 10 万円の奨励金を交付

対 象 者

1. 高等教育機関に在学中で、申請年度末日で30歳未満の方
2. 新たにまちなかの賃貸物件に入居し住民登録（住民票異動）している
3. 当該地区の自治会（町会）に加入している
4. 同様の助成・給付を受けていない

交付要件

本市が指定する「地域活動等プログラム」を実施

実 績

令和3年度	認定20件
令和4年度	認定7件
※ 事業終了	